

講義名	日本語A（読む）【留学生科目】			授業形態	
担当教員	石橋 明子	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

毎回、日本文学・評論・自然科学と多分野に関する記事を紹介し、読解を通して自ら考え、発信する力の育成、日本語能力の向上を目指します。ワークシートを用いたディスカッションも行います。

到達目標
読むことで、日本語の文型や語彙を習得し、文の構造を学びます。また、読みながらディスカッションや課題を通し、口頭表現力も鍛えます。そして、すべての授業を通し、日本語への問題意識や知的好奇心を高めます。

提出課題
ワークシート、宿題など、授業中に指示します。オリエンテーションで詳しく説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
小テストの場合は、採点した後返却し、その解説を行う。レポートの場合は、学生からの要望により、講評による説明に応じます。

評価の基準
授業への積極性・参加度（20%）
授業課題の提出（20%）
中間課題（30%）
期末課題（30%）
授業内でワークシート、宿題を渡しますので欠席すると受け取れません。

履修にあたっての注意・助言他
出欠は毎回とる。全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。連続3回で1回欠席とする。1.5分以上の遅刻は、欠席とみなします。真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書
.使用しない。

参考図書					
上級日本語教材 日本がわかる、日本語がわかる ベストセラーの書評エッセイ	田中祐輔・川端祐一郎・肖輝・張玥	凡人社	2750	9784893589552	
中上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む。	西原純子・吉田道子・桑原卓男	アルク	2840	9784757422315	

その他
授業中に、プリント資料を配布します。

授業計画

○毎回、授業内でグループワーク・ディスカッションを行います。
○毎回、授業内で配布するワークシートをしてください。予習：要点をまとめ、復習：語彙・文法等

- 第1回：オリエンテーション/「中身当てクイズ」 著：佐藤雅彦
- 第2回：「中身当てクイズ」 著：佐藤雅彦
- 第3回：「やっぱり英語が必要なの？」 著：橋本治
- 第4回：「やっぱり英語が必要なの？」 著：橋本治
- 第5回：「隣人訴訟事件」 著：後藤昭
- 第6回：「隣人訴訟事件」 著：後藤昭
- 第7回：中間課題
- 第8回：「天井裏」 著：村上春樹
- 第9回：「天井裏」 著：村上春樹/「日本人と文学」1を読む(キーワード：村上春樹)
- 第10回：「日本人と文学」1を読む(キーワード：村上春樹)
- 第11回：「雨傘」 著：川端康成
- 第12回：「雨傘」 著：川端康成
- 第13回：「吟味された言葉」 著：大江健三郎
- 第14回：「吟味された言葉」 著：大江健三郎
- 第15回：期末課題

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
当週に学習した項目について、理解に時間を要した部分を中心に復習し、次週の授業に向けて準備をすること。（120分程度）
学習内容の定着を図るため、また小テスト対策として、学習語彙や機能語を使って作文などをして予習・復習を行うこと。（120分程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力
本学は次の5項目の下に示される資質・能力を身につけた人材を育成することを目標とし、本学の学生は、卒業時にこれらの資質・能力を共通して身につけていることを求められます。

- (1) 「ネアカ」のひのび「へこたれず」の精神をもった人材
 - (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
 - (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材
 - (4) 自主・自立の精神を持った人材
 - (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
- 上記に加え、本学の学生は「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるため、次のような基礎能力を確実に身につけておくことを求められます。
- (1) 新聞が読め、理解できる
 - (2) パソコンの基本的な操作ができる
 - (3) 人と円滑なコミュニケーションをとることができる
 - (4) 必要な日本語能力を身につけ、活用することができる（留学生）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
日本文化をテーマとした問いに対し、話し合い応える機会を設けます。そして、自ら考える力や発信する力を身につけます。

実務経験の有無及び活用

備考